学校番号	3033

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数数学ⅡS	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「新課程　数学Ⅲ」（数研出版）						
副教材等	教科書傍用「新課程　４ＳＴＥＰ　数学Ⅲ＋Ｃ」（数研出版） 参考書「新課程　チャート式　基礎からの数学Ⅲ＋Ｃ」（数研出版） 問題集「新課程　オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ・Ｃ受験編」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ⅲ・Ｃの単元は「極限」「微分法」「積分法」「ベクトル」「複素数平面」「式と曲線」となっています。このうち「微分法」「積分法」（以下，「微分・積分」と称す）の単元は，これまでとは比べ物にならない圧倒的な計算量の上に成り立っています。計算力なくして「微分・積分」の高みに到達することはできません。まずは十分な計算練習を積み，計算力を高めた上で，理論の部分を深く理解するようにしてください。

全ての単元が終わった後は，「微分・積分」等の入試問題集を取り扱います。何せ入試問題ばかりです，難度が高いと感じることでしょう。ただ大事にしてほしいことは，それまでやってきた基礎部分（公式や計算手順などを指します。もちろん数ⅠⅡＡＢを含みます。）を決して疎かにしないことです。問題ごとに，「どのような基礎事項を理解し，使えるようにすべきか」を意識して取り組んでください。皆さんがこれまでの学習で培ってきたものを最大限発揮することができると，皆さんの中で数学に対する違った世界が見えてくることでしょう。それがそのまま入試へと繋がります。

数学Ⅲ・Ｃで学んだことは，大学数学へと直結します。この授業を通じ，「微分・積分」の奥深さを楽しんでもらえることを期待しています。

2　学習の到達目標

微分法・積分法についての学習、および数学Ⅲ・Ｃ分野の種々の入試問題演習を通して以下の資質・能力を身につける。

【知識及び技能】

a:基礎的な知識の確固たる定着と，知識を発展的内容につなげる技能の習熟。

【思考力、判断力、表現力等】

b:数学的に抽象化された事象を考察し，自在に表現する能力。

【学びに向かう力、人間性等】

c:数学的対象に興味関心をもち、自らの力によって積極的に活用する態度。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学的活動を通して，微分法，積分法における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身につけている。	数学的活動を通して，微分法，積分法における数学的な見方や考え方を身につけ，事象を数学的に捉え，論理的に考察し，表現するとともに，過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数学的活動を通して，微分法，積分法に関心をもつとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	微分法	・第ｎ次導関数 ・関数のいろいろな表し方と導関数 ・接線と法線 ・平均値の定理 ・関数の値の変化 ・関数の最大と最小 ・関数のグラフ ・方程式,不等式への応用	a: 接線や法線の方程式について理解し，基礎的な知識を身につけている。第 2 次導関数の符号と極大・極小の関係について理解している。 b: 平均値の定理を用いて導関数の符号と関数の増減について考察することができる。第 2 次導関数の値の正負と曲線の凹凸の関係について考察することができる。 c: 平均値の定理に関心をもち，事象の考察に活用しようとしている。関数の極大・極小に関心をもち，関数の考察に活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
	積分法	・不定積分とその基本性質 ・置換積分法 ・部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分 ・定積分の置換積分法 ・定積分の部分積分法 ・定積分の種々の問題 ・面積 ・体積 ・曲線の長さ ・速度と道のり ・速度と加速度 ・近似式	a: 不定積分や定積分，図形の面積などを求めることの基本的な概念，原理・法則などを理解し，基礎的な知識を身につけている。 b: 不定積分や定積分を用いて関数や数量を考察し表現したり，思考の過程を振り返ったりすることなどを通して，関数的な見方や考え方を身につけている。 c: 不定積分や定積分に関心をもつとともに，それらの有用性を認識し，関数や数量の考察に活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物
後期	演習形式	既習範囲（主に数学Ⅲ・C）から横断的に演習する。 具体的には以下の分野を総合して学習する。（極限，微分法，式と曲線，複素数）	a: 既習事項に関する基本的な概念を理解し，知識を身につけている。 b: 事象を既習事項を用いて考察し表現したり，その過程を振り返ったりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 既習事項に関心をもつとともに，それらの有用性を認識し，事象の考察に活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト	レポート等の提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度